



犠牲祭（イード・アル＝アドハー）

日本では、「シルバーウィーク」という秋の大型連休ですね。カイロ日本人学校では、「**犠牲祭**」というイスラム教徒にとって大切な祝日（4日間）に休みを加えて、9月18日から9連休です。**犠牲祭とは、ラマダンと並んで大きなイード（祝祭）で、マッカ巡礼の最終日**になります。犠牲祭は毎年、**イスラム暦（ヒジュラ暦）**の12月10日から4日間です。イスラム暦は西暦と異なり、月が地球の周りを回することを基準に、1年を29日と30日の12か月で構成しているため、**1年が354日**となります。つまり、**西暦よりも11日短く**なります。したがって、イスラム暦の行事は、西暦にすると毎年だいたい**11日ずつ早まっていく**こととなります。

犠牲祭の「犠牲」について説明します。イスラム教の神アッラーに対して敬虔な**イブラーヒーム**という使徒がいました。イブラーヒームは、息子の首を切りアッラーに捧げようとした。しかし、アッラーは、イブラーヒームの忠誠心を受けて、**息子を死なせず息子の代わりに羊を犠牲にするように**告げます。その後、イブラーヒームは神の教えをもとに、犠牲として捧げようとした息子と



路上で売られてい羊の肉

共に**マッカにカーバ神殿**を建てます。それ以来、**イスラム教徒は聖地マッカでの巡礼**を行ない、**その後に羊を犠牲として捧げ**（今年は9月24日）、親戚や貧しい家庭と分け合うようになったとされています。つまり、この犠牲祭とは、イブラーヒームが愛する息子を犠牲にする気持ちを思い出し、神への忠誠を誓うことでもあるのです。

上の写真は、犠牲祭初日の9月23日（水）に、私の家の近くの路上でられていた羊の肉です。学校のエジプト人スタッフの中には、生きている羊を買ってきて家族や親戚が集まって家で屠殺して食べる人もいます。先号のたよりで、学校前の道路の羊の写真を掲載しました。この羊たちも、主にこの犠牲祭のために飼育されているもので、その前を通ると「一頭買わないか」と声を掛けられます。また、学校からの帰宅時に、さばいていたり上の写真のように吊るされている羊を何度も見かけました。ちょっとショッキングな光景です。

犠牲祭に関連してもう一つ。これはラマダンの時にも言えるのですが、裕福な人からお金をもらう習慣があります。しかも、親しい人でないと「お金をください」とは言われませんので、言われればその人との関係が密接になった証拠にもなります。私は、まだ誰からも言われていませんが、ドライバーさんにお金を渡しました。日本では考えにくいのですが、ここエジプトでは、お金は人間関係を円滑にする働きがあります。金額や渡し方、タイミングなど、慣れていない私にはとても難しいです。